

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルナ もりのこびとたち		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 18日 ～ 2025年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 2月 18日 ～ 2025年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	ヒヤリハット報告書の記載は、自己申告や報告をもとに、出来るだけその時の状況を詳しく記載し、善後策をコメントし、共有しており、随時、情報を更新している。	ヒヤリハットの共有は、特に重要と考えており、日々変化する利用児童の状態に合わせて、慢心することなく、注意深く利用児童の行動を観察し、適切な療育につながるよう、今後も継続して取り組む。
2	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている。	運動がメインの活動になるため、広いスペースを確保し、活動内容に応じてスペースを分けて活動する事が出来ている。	スペースを完全に仕切る事が部屋の構造上難しいが、オープンスペースの利点を活かした活動が実施できるよう、活動内容を充実させる。
3	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	発語が難しい場合は、絵カード等を使ったり選択肢を提示する等して、利用児童の意思表示をサポートしている。また、保護者対応に関しては担当窓口を一元化し、相談内容を集約して、安心して相談できるよう対応している。	利用児童が自分の気持ちを言語化して適切な表現方法で伝える事が出来るようになるよう、一人一人の発達段階に応じたサポートが出来る様、支援に取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	多機能型の為、支援員が揃う時間帯を確保する事が難しい。	指導員の気づきにつながるようなモデルを現場で提示できる取り組みや工夫を検討し、実践する。また、一人一人の支援のポイントを、適切なタイミングで児発管から現場に伝えられるような仕組みを検討する。
2	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	身体拘束が必要な状況は発生していない。	身体拘束が必要な状況は発生していないが、今後、自傷や他害等身体拘束が必要になる状況を仮定して、組織的な対応について具体的に検討し、通知する。
3			